

職業奉仕委員会

職業奉仕委員会 委員長 島田 敏郎 (富士見RC)

【はじめに】

職業奉仕は、「ロータリーの目的」の第2項を土台としており、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められている。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事はすべて価値あるものとの認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

【職業奉仕とは具体的にどのようなことか】

例) 車の製造会社

- 無料で救急車の車両を自治体に提供する: 社会奉仕
 - 消費者のためになる安全で、運転しやすく性能の良い車、環境にも優しい車を製造し、適正な価格で販売する: 職業奉仕
- 職業で得られた利益を奉仕に還元するのではなく、職業自体で奉仕するという考え方。

【職業奉仕にまつわる標語】

- Service above self フランク・コリンズ

「超我の奉仕(サーヴィス)」

- One profits most who serves best アーサー・F・シェルドン

「最もよく奉仕(サーヴィス)する者、最も多く報われる」

→ 職業を通じて他者、つまり消費者のためになる行為を続けることが、その企業の信用を増し、繁栄をもたらし、さらには個人の幸福につながる。

【あらためて職業奉仕とは】

職業奉仕とは、職業を通じて他者のためになることをすることである。では他者のためになることをするには何をすべきか。

① その職業が価値あるものであると認めなければならない。

② 企業であれば従業員たちが働きやすい環境を整え適正な賃金を支払う。

→ 高い倫理観と高潔性を持った人々がその職業に集まる。(=ロータリーの目的第2項)

→ 従業員たちが自らの職業に満足していれば、自然と他者の利益を重んじた商品・サービスが追求される。

その結果企業が繁栄し、企業も従業員も経営者も、そして消費者も満足を得られ、最終的には社会への貢献となる、これが職業奉仕の目指すところである。

【職業奉仕の実践—四つのテスト—】

「四つのテスト」はロータリー創設50周年に国際ロータリー会長を務めたハーバード・J・テイラーが1932年の世界大恐慌の時に考えたもの。商取引の公正さを測る尺度として多くのロータリアンに活用されてきた。職業奉仕の実践に必要な高い倫理観と高潔性を持ち続けるため、ロータリアンはもちろん一般の従業員の方々にも自己評価の基準としてご活用いただくことを推奨する。

【今年度職業奉仕委員会が目指すこと】

- 職業奉仕への理解を深めていただくため、各クラブにおける「職業奉仕ラーニングツール」の活用を推進する。
- 各クラブにおいて「四つのテスト」の唱和と、各会員の職場における周知・実践を推奨する。
- 会員の皆様にご自身の職業における職業奉仕を遂行していただき、それぞれの職業、クラブ、地域全体をより発展させる。

ロータリーは職業人の集まりです。それぞれの職業の発展はクラブの活力となります。ぜひ、職業奉仕についてご理解を深め、それを実践することで第2570地区からロータリークラブ、そして地域社会を元気にしていきましょう。